

平成 23 年 5 月 17 日
男女共同参画局

「パープルダイヤルー性暴力・DV相談電話ー」結果（概要）

本年 2 月 8 日（火）から 3 月 27 日（日）まで実施した電話相談「パープルダイヤル」では、配偶者からの暴力に加えて、政府として初めて性暴力による被害に関する被害や男性からの相談に対応するとともに、6 か国語（※）による対応を行い、期間中合計約 2 万 3 千件の相談を受けた。

（※）英語、タガログ語、タイ語、中国語、韓国語、スペイン語

総呼数	完了呼数	完了呼数の内訳			
		女性相談	急性期相談	男性相談	外国人相談
61,329	23,460	16,898	2,343	3,435	784
	100%	72.0%	10.0%	14.6%	3.3%

（注）完了呼数とは、相談員に電話がつながり、相談を行った数

（注）総呼数と完了呼数の差には、相談員とつながる前に先方が切ったものやいわゆるワン切り、話中でつながらなかったものなどが含まれる。

これらの相談からは、以下のとおり配偶者暴力や性暴力の被害に苦しんでいる方々の深刻な状況とその支援の取組の必要性が改めて浮き彫りになった（注：数値は 2 月 8 日から 3 月 7 日までの相談対応表を分析した暫定的なもの）。

配偶者からの暴力に関する相談

○10 代から 70 代まで幅広い年代から相談があった。相談件数は、午前 10 時から午後 6 時までが多いが、午後 10 時から翌朝 8 時までの間にも約 2 割の相談があった。

○約 3 割が 10 年以上暴力を受け続けており、割合は 16 年以上が最も多い（約 2 割）。

○相談員からは、十分な支援につなげられたケースとそうでないケースが生じた理由として、配偶者暴力被害者支援のための地域間格差（※）があるとの報告があった。

※支援センター、官民連携、ワンストップサービス、付添支援など

○10 代等若年層から、交際相手からの暴力（いわゆる「デートDV」）の深刻な相談が寄せられ、中には緊急に保護が必要であるような事例もみられた。

急性期の性暴力被害（特に強姦、強制わいせつ）に関する相談

○相談者の半数以上が 10 代から 30 代であった。相談件数の約 3 割が、午後 10 時から翌朝 8 時までの間に掛かってきた。

○約 7 割が、家族、職場関係者などの知っている人からの被害であった。

- 相談員からは、相談者に紹介することができる地域の支援機関が絶対的に不足している、一方で、「医療機関や警察、男女センターなどの支援機関の連携が十分でないために支援に至らなかったケースがあった、との報告があった。
- 急性期性暴力被害相談のうち、約4割が「無言・いたずら」電話であった。

男性からの相談

- 約8割はDV以外の様々な相談であり、話を聞いてもらいたいという要望が多かった。男性相談の窓口が少ないことも要因の一つと考えられる。
- DVに関する相談は、30代と40代が中心であり、暴力を振るわれた継続年数は3年未満が約3割、これまで支援を受けたことがある者は1割未満であった。
- 相談員からは、男性からの相談への対応は、女性からの相談への対応とは異なるノウハウが必要であった、との報告があった。

外国人からの相談

- 知人や友人、民間団体からの紹介により相談した者が多かった。
- 言葉の問題から、相談機関や警察で対応できず帰される事例があった。相談員からは、通訳の手配など支援機関との調整が困難で時間が掛かったとの報告があった。
- 「話を聞いてほしい」という相談の割合が1割未満と低い。これは、中々相談できず、被害が深刻になってから相談するということも要因の一つと考えられる。

震災に関する相談の状況

- また、東日本大震災の発生後、以下のような震災に関係した相談もあった。
- 震災のストレスで配偶者の暴力がひどくなった、イライラをぶつけてくる。
 - 住居が被災したため身を寄せている場所で暴力を受けている。
 - 地震や停電の暗闇により過去の性暴力被害を思い出し、つらい。
 - 配偶者の暴力から逃れている場所で震災に遭い、孤立している。

<パープルダイヤル交通広告>

それは、DVです。
それは、性暴力です。

あなたも、いつか知らない、被害を受ける。

一緒に出口を探しましょう。

性暴力・DV相談24時間受付 パープルダイヤル
0120-941-826
経験豊かな相談員が対応いたします
3月27日(日)まで/男性からの相談も受け付けます

通話料無料/匿名・録音厳守/24時間受付